

九州厚生局長 殿

大分大学医学部附属病院長
野口 隆

特定機能病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 24 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	58.66 人
--------	---------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照 (様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照 (様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	231人	189人	402.1人	看護補助者	34人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	7人	15人	20.8人	理学療法士	8人	臨床検査技師	43人
薬剤師	33人	0人	33人	作業療法士	6人	衛生検査技師	0人
保健師	1人	0人	1人	視能訓練士	4人	その他	0人
助産師	20人	0人	20人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	571人	41人	600.5人	臨床工学技士	10人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	0人	その他の技術員	10人
歯科衛生士	2人	0人	2人	歯科技工士	2人	事務職員	143人
管理栄養士	6人	1人	7人	診療放射線技師	32人	その他の職員	53人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	494.1人	9.2人	503.3人
1日当たり平均外来患者数	982.8人	48.0人	1,030.8人
1日当たり平均調剤数	1987.4剤		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数 (毎日の 24 時現在の在院患者数の合計) を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。



(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	1人
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	7人
腹腔鏡下スリーブ状胃切除術	16人
自家液体窒素処理骨移植	1人
神経症状を呈する脳放射線壊死に対する核医学診断及びペバシズマブ静脈内投与療法	6人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
該当なし	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。
(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	バルーン閉塞下逆行性経静脈塞栓術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 内視鏡的に治療困難な消化管静脈瘤に対し、経静脈的にカテーテルを挿入し、流出路をバルーンにて閉塞下にオルガミンなどの硬化剤を使用して静脈瘤の根治を得る手技。			
医療技術名	血管腫・血管奇形に対する直接穿刺による硬化療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 経動脈的塞栓術では効果の見込めない血管腫・血管奇形病変に対し、直接穿刺し、硬化剤を注入する方法。			
医療技術名	骨変形矯正や開放粉碎骨折に対するTaylor Spatial Frame(創外固定)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 他の創外固定器と違い、装着後より3次元的に変形矯正ができる。			
医療技術名	陳旧性顔面神経麻痺に対する遊離薄筋弁移植術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 自然回復の見込みのない、陳旧化した顔面神経麻痺患者に対して、遊離筋移植術を行い、顔面の表情再建を行っている。また、移植した筋肉を、健側顔面神経と患側咬筋神経に縫合し、強い動きが得られるよう工夫している。			
医療技術名	食道アカラシアに対する経口内視鏡的筋層切開術(POEM)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 食道アカラシアに対し、筋層切開を行う手術である。全身麻酔下に経口内視鏡を用いて行う。今までの外科手術と比較し、低侵襲であり、治療効果も同等かそれ以上である。			
医療技術名	硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 硬膜外腔・神経根の癒着に起因する難治性腰下肢痛を、鏡視下・透視下に癒着を剥離することで治療する手技。			
医療技術名	腹腔鏡下系統的肝切除術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 従来の顔面手術創と比較し1/5から1/6程度の切開創で、侵襲が軽減される。術後の疼痛も少なく、早期の自立歩行および食事摂取が可能となることから、術後在院日数の短縮にもつながる。			
医療技術名	超音波気管支鏡ガイド下経気管支リンパ節生検(EBUS-TBNA)	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 先端に超音波発信器が付属された超音波気管支鏡を用いて、気管・気管支の深層にあるリンパ節に対して、エコー画像ガイド下に穿刺吸引生検を行い、組織診断する。			
医療技術名	超音波プローブおよび気管支鏡ナビゲーションシステム補助下の経気管支肺生検	取扱患者数	48人
当該医療技術の概要 気管支鏡検査の前日までにナビゲーションシステムで病巣との関与が予想される気管支を同定し、気管支鏡検査時間の短縮を図る。実際の検査においては、ナビゲーションシステムの結果を参考としつつ、超音波プローブを用いて標的とした陰影に確実に的中させ、その後ガイドシース内の器具を入れ替えて生検を行う。			
医療技術名	自己心膜を用いた大動脈弁再建術	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 大動脈弁狭窄症もしくは閉鎖不全患者において従来の人工弁置換ではなく、術中自己の心膜(心嚢膜)を採取しグルタールアルデヒドで処理後3枚の弁葉を作成して自己弁輪に縫着して大動脈弁を再建する方法。狭小弁論には特に有用。			
医療技術名	Squid capture法によるin-situ fenestrationを用いたステントグラフト治療	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 スネアでステントグラフトを把持して弓部大動脈内でステントグラフトを穿刺して腕頭動脈とステントグラフトに枝を血管内で作成し、脳血流を確保する方法。開胸を行わずに上行大動脈まで及ぶ弓部大動脈瘤を治療する方法。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	55人	・膿疱性乾癬	8人
・多発性硬化症	44人	・広範脊柱管狭窄症	6人
・重症筋無力症	46人	・原発性胆汁性肝硬変	34人
・全身性エリテマトーデス	192人	・重症急性膵炎	7人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	54人
・再生不良性貧血	12人	・混合性結合組織病	30人
・サルコイドーシス	180人	・原発性免疫不全症候群	1人
・筋萎縮性側索硬化症	19人	・特発性間質性肺炎	48人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	116人	・網膜色素変性症	6人
・特発性血小板減少性紫斑病	30人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	21人	・肺動脈性肺高血圧症	4人
・潰瘍性大腸炎	70人	・神経線維腫症	19人
・大動脈炎症候群	14人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ピュルガー病	3人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	13人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	2人
・脊髄小脳変性症	28人	・ライソゾーム病	2人
・クローン病	42人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	13人	・脊髄性筋委縮症	3人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	68人	・球脊髄性筋委縮症	1人
・アミロイドーシス	7人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	6人
・後縦靭帯骨化症	36人	・肥大型心筋症	4人
・ハンチントン病	4人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウイルス動脈輪閉塞症)	26人	・ミトコンドリア病	7人
・ウェゲナー肉芽腫症	8人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	4人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	26人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリーブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	22人	・黄色靭帯骨化症	4人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	53人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・腹腔鏡補助下痔体尾部切除又は核出術	・
・超音波骨折治療法	・
・腹腔鏡下根治的膀胱全摘除術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	平均して月1回
部 検 の 状 況	部検症例数 17 例 / 部検率 7.10%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額(千円)	補助元又は委託元
電磁ホーン型ESRイメージング装置による脳虚血モデルでの酸化ストレスの画像化	上田 徹	脳神経外科	650	補委 独立行政法人 日本学術振興会
圧受容体反射による2型糖尿病患者のリスク層別化と魚油製剤による心血管イベント抑制	油布 邦夫	内科	130	補委 独立行政法人 日本学術振興会
糖尿病モデル動物における反復性低血糖発作が心筋へ及ぼす影響と病態の解明	手嶋 泰之	内科	1,040	補委 独立行政法人 日本学術振興会
禁煙後に生じる体重増加機構の解析～摂食中枢関連ホルモンとピロリ菌の影響について～	阿部 航	総合内科・総合診療科	780	補委 独立行政法人 日本学術振興会
急性好酸球性肺炎におけるオステオポンチン上昇の意義	宮崎 英士	総合内科・総合診療科	1,300	補委 独立行政法人 日本学術振興会
脳血流SPECTによる脳梗塞急性期治療の効果判定システムの開発	平野 照之	内科	1,170	補委 独立行政法人 日本学術振興会
自殺に影響を与える要因の多角的検討:水道水に含まれる微量なリチウムを中心に	石井 啓義	精神科	1,430	補委 独立行政法人 日本学術振興会
多検出器CTを用いた肝内外門脈周囲域への癌進展形式の解析	松本 俊郎	放射線科	650	補委 独立行政法人 日本学術振興会
ヒト心房筋電氣的リモデリングの成因解明のためのマイクロRNA解析	岩田 英理子	心臓血管外科	650	補委 独立行政法人 日本学術振興会
骨折治癒におけるリコンビナント線維芽細胞増殖因子とビスホスフォネートの協調効果	片岡 晶志	整形外科	520	補委 独立行政法人 日本学術振興会
InvasivefrontのmiRNAの発現解析による前立腺癌細胞浸潤機序の解明	佐藤 文憲	腎臓外科・泌尿器科	1,040	補委 独立行政法人 日本学術振興会
脂肪細胞由来生体活性物質の子宮内膜機能への影響に関する研究	河野 康志	産科婦人科	650	補委 独立行政法人 日本学術振興会
インフルエンザ菌の感染性免疫寛容に伴う慢性炎症化機序の解明	平野 隆	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	650	補委 独立行政法人 日本学術振興会
GNEと相互作用する蛋白質の解明による遠位型ミオパチーの病態解明	中村 憲一郎	内科	1,560	補委 独立行政法人 日本学術振興会
肥満症、メタボリックシンドロームにおける食事のリズム調節因子の解析	正木 孝幸	内科	1,040	補委 独立行政法人 日本学術振興会
過栄養性脂肪肝の病態生理学的メカニズムの解明と活性酸素によるDNA障害の関与	加隈 哲也	内科	1,300	補委 独立行政法人 日本学術振興会
制御性T細胞がEGFR阻害剤の耐性獲得機序に関連しているか	渡邊 浩一郎	内科	1,820	補委 独立行政法人 日本学術振興会
女性に特有用な微小血管性狭心症および冷え症の病態解明と漢方的アプローチ	中川 幹子	内科	2,210	補委 独立行政法人 日本学術振興会
新たな緑膿菌感染症の予防戦略ー線毛の断片化ペプチドによるワクチンの開発	門田 淳一	内科	1,300	補委 独立行政法人 日本学術振興会
特発性肺線維症における炎症細胞アポトーシス誘導因子の臨床応用	濡木 真一	内科	1,170	補委 独立行政法人 日本学術振興会
GNE遺伝子異常に伴う遠位型ミオパチーの病態解析と治療法の開発	熊本 俊秀	内科	1,430	補委 独立行政法人 日本学術振興会
同種造血細胞移植後ヒトヘルペスウイルス6脳炎の病態解析と発症予測	緒方 正男	内科	1,430	補委 独立行政法人 日本学術振興会
多剤耐性緑膿菌感染症を制御する新しいシステムの構築ーRNAiによる耐性遺伝子阻害	平松 和史	内科	1,430	補委 独立行政法人 日本学術振興会
新生児皮下脂肪壊死症は褐色脂肪組織のアポトーシスにより生じる	藤原 作平	皮膚科	780	補委 独立行政法人 日本学術振興会
デルマトポンチンにより活性化されたフィブロネクチンは抗腫瘍活性を持つのか	岡本 修	皮膚科	1,040	補委 独立行政法人 日本学術振興会

PPAR α の活性化は、皮膚バリア機能異常とアレルギー性炎症の悪循環を断つ	波多野 豊	皮膚科	1,560	補委	独立行政法人 日本学術振興会
うつ病・パニック障害におけるFKBP5とCRHR1の総合的な役割研究	穂吉 條太郎	精神科	1,690	補委	独立行政法人 日本学術振興会
がん特異的ラジカスカベンジ制御に基づく新しい癌休眠療法の実立	猪股 雅史	外科	1,170	補委	独立行政法人 日本学術振興会
急性肝炎時におけるビタミンE誘導体ETS-GS投与の改善効果の検討	新宮 千尋	麻酔科	1,820	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新規抗酸化物質ETS-GSを用いた敗血症時の副腎不全に対する新しいアプローチ	松本 重清	麻酔科	1,430	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ヒト尿道括約筋に高発現するサイトカイン・シグナル伝達関連遺伝子の同定と機能解析	三股 浩光	腎臓外科・泌尿器科	1,430	補委	独立行政法人 日本学術振興会
網羅的遺伝子解析法を用いた子宮内膜症の病態の解明と新しい薬物療法の開発	榎原 久司	産科婦人科	910	補委	独立行政法人 日本学術振興会
上気道粘膜免疫誘導機序の解明	鈴木 正志	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,430	補委	独立行政法人 日本学術振興会
鼻粘膜樹状細胞を標的とした経鼻ワクチンの開発	児玉 悟	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,560	補委	独立行政法人 日本学術振興会
抗酸化物質の弱点を克服した新たな心筋虚血再灌流障害阻止法の構築	高橋 尚彦	内科	1,560	補委	独立行政法人 日本学術振興会
抗酸化能に着目した肺線維症に対する新規治療法の開発	野口 隆之	麻酔科	1,430	補委	独立行政法人 日本学術振興会
糖尿病モデル動物の心房細動発生におけるIfチャネルリモデリングの役割	篠原 徹二	内科	780	補委	独立行政法人 日本学術振興会
終末期腎癌の進行にかかわるゲノム異常の同定	井上 享	腎臓外科・泌尿器科	1,430	補委	独立行政法人 日本学術振興会
アレイCGH法による粘膜下浸潤胃癌におけるゲノムコピー数異常の網羅的解析	黒田 明子	総合内科・総合診療科	2,210	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ヘリコバクター・ピロリ菌の病原遺伝子判定キットの開発	綿田 雅秀	内科	1,820	補委	独立行政法人 日本学術振興会
エピブラキンは腫瘍悪性度を調節するか？	石川 一志	皮膚科	1,170	補委	独立行政法人 日本学術振興会
肝虚血再灌流障害時におけるビタミンE誘導体ETS-GS投与の改善効果の検討	山本 俊介	麻酔科	1,170	補委	独立行政法人 日本学術振興会
加齢に伴うTNF- α 発現量の増加と外尿道括約筋におけるアポトーシスとの関連性	住野 泰弘	腎臓外科・泌尿器科	1,430	補委	独立行政法人 日本学術振興会
NKT細胞による上気道粘膜免疫応答の誘導・制御の解析と経鼻ワクチンへの応用	野田 謙二	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,690	補委	独立行政法人 日本学術振興会
慢性副鼻腔炎における制御性T細胞およびTH17細胞による炎症遷延化の検討	藤田 佳吾	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,040	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新規 α リポ酸誘導体を用いた敗血症に対する抗酸化療法の開発	古賀 寛教	麻酔科	1,300	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ナノフラーレンの口腔癌に対する光線力学療法への応用に関する基礎研究	山本 哲彰	歯科口腔外科学	1,950	補委	独立行政法人 日本学術振興会
メタボリックシンドローム発症における脾臓の役割	後藤 孔郎	内科	2,990	補委	独立行政法人 日本学術振興会
医薬品に対する応答性の民族差を生じさせる要因は何か？：東アジア国際共同研究	小手川 勤	臨床薬理センター	2,600	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新興真菌症の薬剤耐性機序-真菌にも耐性菌選択濃度域があるのか-	時松 一成	内科	650	補委	独立行政法人 日本学術振興会
十二指腸閉鎖症機序の解明：ダウン症候群におけるソニックヘッジホッグ経路の関与	秋吉 健介	小児科	2,860	補委	独立行政法人 日本学術振興会
川崎病冠動脈病変の機序と治療法の開発：単離血球によるMMPとTIMPの動態の解明	是松 聖悟	小児科	1,690	補委	独立行政法人 日本学術振興会
双極スペクトラムと関連する気質の脳機能画像研究	寺尾 岳	精神科	1,950	補委	独立行政法人 日本学術振興会

腫瘍におけるFDG取り込みレベルとp53ステータスとの相関性に関する生物学的検討	森 宣	放射線科	2,860	補委	独立行政法人 日本学術振興会
消化管がんの増殖・進展におけるリンパ管新生因子の役割	白石 憲男	総合内科・総合診療科	2,600	補委	独立行政法人 日本学術振興会
食道癌における新規抗癌剤効果規定遺伝子の同定と抗癌剤効果予測モデルの確立	野口 剛	総合内科・総合診療科	3,250	補委	独立行政法人 日本学術振興会
レオウイルスナノプローブを用いた微小転移迅速診断法の開発	衛藤 剛	外科	2,470	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ニューロモデュレーション新機軸を駆使した虚血脳再構築・再教育・再学習系統的戦略	藤木 稔	脳神経外科	3,250	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ビタミンE誘導体ETS-GSを用いた脊髄損傷に対する新規治療法の開発	内納 智子	麻酔科	2,730	補委	独立行政法人 日本学術振興会
概日リズムの維持が亜急性疼痛に及ぼす影響の検討	奥田 健太郎	麻酔科	2,730	補委	独立行政法人 日本学術振興会
Vav3遺伝子を治療標的としたホルモン抵抗性前立腺癌治療法の開発	野村 威雄	腎臓外科・泌尿器科	3,380	補委	独立行政法人 日本学術振興会
体外フォトフェレーシスによる抗原特異的免疫寛容機序の解析	清水 史明	皮膚科	4,030	補委	独立行政法人 日本学術振興会
持続血液ろ過透析における新規膜開発の挑戦	安田 則久	麻酔科	2,470	補委	独立行政法人 日本学術振興会
重症敗血症における酸化ストレス制御を目的とした新たな血液浄化カラムの開発	日高 正剛	麻酔科	2,470	補委	独立行政法人 日本学術振興会
がん化学療法による悪心・嘔吐における神経ペプチドのバイオマーカーとしての有用性	佐藤 雄己	薬剤部	910	補委	独立行政法人 日本学術振興会
mTORとオートファジーを制御することによる新しい結節性硬化症治療法の確立	宮原 弘明	小児科	2,080	補委	独立行政法人 日本学術振興会
分泌性因子がもたらすミトコンドリア機能変化と放射線抵抗性獲得機構の解明	菓子野 元郎	先端分子イメージングセンター	2,470	補委	独立行政法人 日本学術振興会
抗癌剤誘発脱毛に対する抗酸化物質DHL-HisZnNaの有用性の検討	中嶋 健太郎	外科	650	補委	独立行政法人 日本学術振興会
放射線性腸炎・皮膚炎に対する新規抗酸化剤の有効性	杉田 諭	外科	910	補委	独立行政法人 日本学術振興会
脳腫瘍における分子標的薬感受性のメカニズム解析	森重 真毅	脳神経外科	1,690	補委	独立行政法人 日本学術振興会
ラット脊椎固定モデルにおける新しいビタミンE誘導体の骨癒合能の検討	宮崎 正志	整形外科	2,730	補委	独立行政法人 日本学術振興会
光治療の新規メカニズムと治療法の開発	小山 淑正	麻酔科	1,690	補委	独立行政法人 日本学術振興会
頭頸部癌におけるシスプラチン耐性機序と新規治療標的分子の解明	能美 希	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,950	補委	独立行政法人 日本学術振興会
新規NF-κB制御不全モデル「Tax1bp1欠損マウス」を用いた眼自然免疫系解析	中野 聡子	眼科	2,340	補委	独立行政法人 日本学術振興会
PKC-デルタを標的とした増殖硝子体網膜症の治療	横山 勝彦	眼科	1,820	補委	独立行政法人 日本学術振興会
電子スピン共鳴法による胎児酸化ストレスの新しい評価法の開発	西田 欣広	産科婦人科	1,820	補委	独立行政法人 日本学術振興会
進行性大腸がんに対する低侵襲治療法の標準的治療法確立に関する研究	北野 正剛	外科	25,000	補委	厚生労働省
グローバル早期臨床試験を推進するための大学院ネットワークの中核としての基盤整備研究	大橋 京一	臨床薬理センター	114,855	補委	厚生労働省
治験の実施に関する研究[ブリリアントブルーG250]	久保田 敏昭	眼科	500	補委	厚生労働省

小計 26
計 79

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Diabetes (2012年 8月 発行)	A novel anti-inflammatory role for spleen-derived interleukin-10 in obesity-induced inflammation in white adipose tissue and liver.	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科
Journal of Neurochemistry (2012年 4月 発行)	Intraportal administration of DPP-IV inhibitor regulates insulin secretion and food intake mediated by the hepatic vagal afferent nerve in rats.	藤原 貫為	内分泌・糖尿病内科
Nephrology Dialysis and Transplantation (2012年 12月 発行)	Obesity-related chronic kidney disease is associated with spleen-derived IL-10.	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科
PLOS ONE (2012年 12月 発行)	Spleen-Derived Interleukin-10 Downregulates the Severity of High-Fat Diet-Induced Non-Alcoholic Fatty Pancreas Disease.	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科
Journal of Neurochemistry (2013年 1月 発行)	Nesfatin-1, corticotropin-releasing hormone, thyrotropin-releasing hormone, and neuronal histamine interact in the hypothalamus to regulate feeding behavior.	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科
Experimental biology and medicine (2012年 4月 発行)	Role of the spleen in the development of steatohepatitis in high-fat-diet-induced obese rats.	後藤 孔郎	内分泌・糖尿病内科
Arthritis and Rheumatism (2012年 6月 発行)	The JAK inhibitor tofacitinib regulates synovitis through inhibition of IFN- γ and IL-17 production by human CD4(+) T cells.	前島 圭佑	膠原病内科
Lupus (2012年 8月 発行)	Successful tocilizumab and tacrolimus treatment in a patient with rheumatoid arthritis complicated by systemic lupus erythematosus.	前島 圭佑	膠原病内科
Journal of the Neurological Sciences (2013年 1月 発行)	Vertebral artery stump syndrome in acute ischemic stroke.	平野 照之	神経内科
Journal of the Neurological Sciences (2012年 12月 発行)	Acquisition of oral intake in severely dysphagic patients with acute stroke: A single-center, observational study involving a database of 4972 consecutive stroke patients.	平野 照之	神経内科
Stroke (2013年 1月 発行)	Secondary signal change and an apparent diffusion coefficient decrease of the substantia nigra after striatal infarction.	平野 照之	神経内科
Dementia and Geriatric Cognitive Disorders (2012年 12月 発行)	Effect of white matter lesions on brain perfusion in Alzheimer's disease.	木村 成志	神経内科
Dementia and Geriatric Cognitive Disorders Extra (2013年 3月 発行)	Relationship between White Matter Lesions and Progression of Cognitive Decline in Alzheimer's Disease.	木村 成志	神経内科
Journal of Clinical Gastroenterology (2012年 4月 発行)	Association of Helicobacter pylori dupA with the failure of primary eradication.	村上 和成	消化器内科
Journal of Gastroenterology (2012年 4月 発行)	Ten-year prospective follow-up of histological changes at five points on the gastric mucosa as recommended by the updated Sydney system after Helicobacter pylori eradication.	兒玉 雅明	消化器内科
Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition (2012年 11月 発行)	Efficacy of rebamipide for low-dose aspirin-related gastrointestinal symptoms.	水上 一弘	消化器内科
Epidemiology Research International (2012年 9月 発行)	Risk Factors for Dysmotility, Acid Reflux Symptoms, and Overlap Using FSSG in Japan.	村上 和成	消化器内科
Digestive Endoscopy (2013年 3月 発行)	Evaluation of selective cyclooxygenase-2 inhibitor-induced small bowel injury: Randomized cross-over study compared with loxoprofen in healthy subjects.	水上 一弘	消化器内科
Medical Molecular Morphology (2012年 6月 発行)	Morphology of the epithelium of the lower rectum and the anal canal in the adult human.	野口 剛	消化器外科
Japanese Journal of Clinical Oncology (2012年 8月 発行)	Hypomanic episode during recurrent gastric cancer treatment: report of a rare case and literature review.	野口 剛	消化器外科
British Medical Journal Case Report (2012年 7月 発行)	Small cell carcinoma of gastro-oesophageal junction with remarkable response to chemo-radiotherapy.	野口 剛	消化器外科
Journal of Translational Medicine (2012年 7月 発行)	Multicenter, Phase II clinical trial of cancer vaccination for advanced esophageal cancer with three peptides derived from novel cancer-testis antigens.	野口 剛	消化器外科
International Cancer Conference Journal (2012年 7月 発行)	Reversible posterior leukoencephalopathy syndrome associated with mFOLFOX6 chemotherapy.	野口 剛	消化器外科

Internal Medicine (2012年 7月 発行)	Incidentally discovered primary malignant melanoma of the trachea.	濡木 真一	呼吸器内科
Respiratory Medicine (2013年 2月 発行)	Incidence of myeloperoxidase anti-neutrophil cytoplasmic antibody positivity and microscopic polyangiitis in the course of idiopathic pulmonary fibrosis.	安東 優	呼吸器内科
手術 (2012年 5月 発行)	食道癌術後挙上結腸壊死に対し遊離空腸再建術を行った1例	小森 陽子	消化器外科
日本臨床外科学会雑誌 (2012年 6月 発行)	精索内pleomorphic lipomaの1例	野口 剛	消化器外科
癌と化学療法 (2012年 8月 発行)	Modified FOLFOX6(mFOLFOX6)療法中に可逆性後白質脳症(RPLS)を来した1例	野口 剛	消化器外科
Bone Marrow Transplantation (2013年 2月 発行)	Foscarnet against human herpesvirus (HHV)-6 reactivation after allo-SCT: breakthrough HHV-6 encephalitis following antiviral prophylaxis.	緒方 正男	血液内科
Metabolism (2012年 8月 発行)	Association between hippocampal volume and serum adiponectin in patients with type 2 diabetes mellitus.	藤木 稔	脳神経外科
Clinical Neurology and Neurosurgery (2012年 9月 発行)	Short latency afferent inhibition associated with cortical compression and memory impairment in patients with chronic subdural hematoma.	川崎 ゆかり	脳神経外科
眼科臨床紀要 (2012年 6月 発行)	眼内レンズ毛様体縫着術の術後成績	秦 俊尚	眼科
あたらしい眼科 (2013年 1月 発行)	正常眼圧緑内障に対するタフルプロストとラタノプロストの眼圧下降効果と安全性の比較	中室 隆子	眼科
眼科臨床紀要 (2013年 3月 発行)	脳幹部病変による眼球偏位に対する斜視手術	大木 玲子	眼科
The Journal of Dermatology (2012年 10月 発行)	Small nuclear size of Merkel cell tumors is a useful indicator of poor prognosis.	岡本 修	皮膚科
Annals of Plastic Surgery (2012年 9月 発行)	Asynchronous osteoradionecrosis of the mandible treated with sequential fibula osteoseptocutaneous flaps: a report of two cases.	清水 史明	形成外科
Journal of Peptide Science (2012年 4月 発行)	Establishment and clinical application of a highly sensitive enzyme immunoassay for determination of N-acetyl-seryl-aspartyl-lysyl-proline.	鈴木 陽介	薬剤部
Biological and Pharmaceutical Bulletin (2012年 6月 発行)	Correlation between plasma ammonia level and serum trough concentration of free valproic acid in patients with epilepsy.	伊東 弘樹	薬剤部
Chemotherapy (2012年 11月 発行)	Is peak concentration needed in therapeutic drug monitoring of vancomycin? A pharmacokinetic-pharmacodynamic analysis in patients with methicillin-resistant staphylococcus aureus pneumonia.	鈴木 陽介	薬剤部
Journal of Peptide Science (2013年 1月 発行)	Development and clinical application of an enzyme immunoassay for the determination of midregional proadrenomedullin.	鈴木 陽介	薬剤部
Journal of Clinical Pharmacy and Therapeutics (2013年 2月 発行)	Effect of pilocarpine on substance P and calcitonin gene-related peptide releases correlate with salivary secretion in human saliva and plasma.	佐藤 雄己	薬剤部
International Journal of Peptides (2013年 3月 発行)	Interaction between pirenzepine and Ninjinto, a traditional Japanese herbal medicine, on the plasma gut-regulated peptide levels in humans.	佐藤 雄己	薬剤部
American Journal of Neuroradiology (2012年 6月 発行)	Turn-back embolization technique for effective transvenous embolization of dural arteriovenous fistulas.	田上 秀一	放射線科
Radiology (2012年 5月 発行)	Extrahepatic bile duct cancer: invasion of the posterior hepatic plexuses--evaluation using multidetector CT.	山田 康成	放射線科
British Journal of Radiology (2012年 8月 発行)	Thin-section CT findings of patients with acute Streptococcus pneumoniae pneumonia with and without concurrent infection.	岡田 文人	放射線科
Abdominal Imaging (2012年 8月 発行)	"Peripancreatic strands appearance" in pancreatic body and tail carcinoma: evaluation by multi-detector CT with pathological correlation.	松本 俊郎	放射線科
Open Journal of Radiology (2012年 9月 発行)	Air Trapping: A Cause of Heterogeneous Attenuation.	岡田 文人	放射線科
Journal of Vascular and Interventional Radiology (2012年 10月 発行)	Anatomic features and retrograde transvenous obliteration of duodenal varices associated with mesocaval collateral pathway.	清末 一路	放射線科

British Journal of Radiology (2012年 8月 発行)	Thoracic duct and cisterna chyli: evaluation with multidetector row CT.	清永 麻紀	放射線科
British Journal of Radiology (2012年 12月 発行)	Thin-section CT findings in Pseudomonas aeruginosa pulmonary infection.	岡田 文人	放射線科
Journal of Vascular and Interventional Radiology (2013年 2月 発行)	Unenhanced magnetic resonance angiography with time-spatial labeling inversion pulse for evaluating visceral artery aneurysms after endosaccular packing with detachable coils: preliminary results.	丸野 美由希	放射線科
Neuroradiology (2013年 2月 発行)	Spinal ventral epidural arteriovenous fistulas of the lumbar spine: angiourchitecture and endovascular treatment.	清末 一路	放射線科
American Journal of Neuroradiology (2013年 3月 発行)	Superior petrosal sinus: hemodynamic features in normal and cavernous sinus dural arteriovenous fistulas.	島田 隆一	放射線科
Case Reports in Otolaryngology (2012年 6月 発行)	Endoscopic endonasal transturbinate approach to the pterygopalatine fossa in the management of juvenile nasopharyngeal angiofibromas.	児玉 悟	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
Case Reports in Otolaryngology (2012年 6月 発行)	Wegener's granulomatosis with extensive bone abnormalities mimicking fungal sinusitis.	児玉 悟	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
Case Reports in Otolaryngology (2012年 6月 発行)	Bilateral endoscopic medial maxillectomy for bilateral inverted papilloma.	児玉 悟	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
小児耳鼻咽喉科 (2012年 6月 発行)	待機的加療にて低侵襲的に開放しえた非典型的咽後膿瘍の1例	川野 利明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
耳鼻咽喉科展望 (2012年 10月 発行)	鼻中隔用シェーパseptoplasty burの有用性の検討	児玉 悟	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
日本鼻科学会誌 (2012年 12月 発行)	嗅神経芽細胞腫に対する内視鏡下経鼻手術--その術式の検討	児玉 悟	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
Otology Japan (2013年 2月 発行)	慢性中耳炎症病態におけるTh17細胞およびIL-17産生γδT細胞の動態	平野 隆	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
Ultrasound in Medicine and Biology (2013年 3月 発行)	Effect of low-intensity focused ultrasound on the middle ear in a mouse model of acute otitis media.	野田 加奈子	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
FEMS Immunology & Medical Microbiology (2013年 3月 発行)	Pili play an important role in enhancing the bacterial clearance from the middle ear in a mouse model of acute otitis media with Moraxella catarrhalis.	川野 利明	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
日本鼻科学会誌 (2013年 3月 発行)	前篩骨動脈損傷の回避と対処法	児玉 悟	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
Stress and Health (2012年 4月 発行)	The Effects of Single and Repeated Psychiatric Occupational Therapy on Psychiatric Symptoms: Assessment Using a Visual Analogue Scale.	寺尾 岳	精神科
Neuroscience Research (2012年 5月 発行)	Salivary alpha-amylase and cortisol responsiveness following electrical stimulation stress in panic disorder patients.	田中 悦弘	精神科
American Journal of Medical Genetics Part B: Neuropsychiatric Genetics (2012年 6月 発行)	Association of CRHR1 and CRHR2 with major depressive disorder and panic disorder in a Japanese population.	石飛 佳宣	精神科
PLOS ONE (2012年 7月 発行)	Differences in salivary alpha-amylase and cortisol responsiveness following exposure to electrical stimulation versus the Trier Social Stress Tests.	丸山 義博	精神科
BMC Psychiatry (2012年 8月 発行)	An uncommon case of random fire-setting behavior associated with Todd paralysis: a case report.	兼久 雅之	精神科
Neuropsychobiology (2012年 9月 発行)	Serum ghrelin levels and the effects of antidepressants in major depressive disorder and panic disorder.	石飛 佳宣	精神科
Progress in Neuro-Psychopharmacology & Biological Psychiatry (2012年 10月 発行)	Triiodothyronine may be possibly associated with better cognitive function and less extrapyramidal symptoms in chronic schizophrenia.	寺尾 岳	精神科
World Journal of Psychiatry (2012年 10月 発行)	Bipolar spectrum: Relevant psychological and biological factors.	寺尾 岳	精神科
Journal of Affective Disorders (2012年 12月 発行)	Latitude effect on bipolar temperaments.	河野 健太郎	精神科
Journal of Affective Disorders (2012年 12月 発行)	Type A behavior pattern: Bortner scale vs. Japanese-original questionnaires.	寺尾 岳	精神科

Journal of forensic sciences (2013年 1月 発行)	Hippocampal agenesis in an individual who engaged in violent criminal behaviors after discontinuing carbamazepine and paroxetine treatment.	穂吉 條太郎	精神科
Clinical Neuropsychopharmacology and Therapeutics (Web Journal) (2013年 3月 発行)	Comparison of the Usefulness of Lithium and Valproate.	寺尾 岳	精神科
Journal of Thoracic Oncology (2012年 12月 発行)	First case of combined small cell lung cancer with adenocarcinoma harboring EML4-ALK fusion and an exon 19 EGFR mutation in each histological component.	杉尾 賢二	呼吸器・乳腺外科
Surgery Today (2013年 3月 発行)	A rare point mutation in the Ras oncogene in hepatocellular carcinoma.	杉尾 賢二	呼吸器・乳腺外科
癌と化学療法 (2012年 8月 発行)	肺癌における地域連携クリティカルパスの現況と問題点: 早期肺癌術後における再発形式と二次肺癌の発生について.	杉尾 賢二	呼吸器・乳腺外科
最新医学 (2013年 9月 発行)	悪性胸膜中皮腫に対する治療の現状と最新治療について—分子標的治療および遺伝子治療を中心に—.	杉尾 賢二	呼吸器・乳腺外科
International Journal of Cancer (2012年 5月 発行)	Pharmacokinetic parameters from 3-Tesla DCE-MRI as surrogate biomarkers of antitumor effects of bevacizumab plus FOLFIRI in colorectal cancer with liver metastasis.	平島 詳典	腫瘍内科
International journal of clinical oncology (2013年 2月 発行)	Evaluation of safety, pharmacokinetics, and efficacy of vorinostat, a histone deacetylase inhibitor, in the treatment of gastrointestinal (GI) cancer in a phase I clinical trial.	白尾 国昭	腫瘍内科
癌と化学療法 (2012年 12月 発行)	フッ化ピリミジン (Fluorouracil, S-1, Capecitabine) について	平島 詳典	腫瘍内科
九州歯科学会雑誌 (2012年 8月 発行)	口腔悪性腫瘍診断における18F-FDG-PET/CTの有用性に関する検討	山本 哲彰	歯科口腔外科
PLOS ONE (2013年 2月 発行)	Genomic profiling of oral squamous cell carcinoma by array-based comparative genomic hybridization.	吉岡 俊一	歯科口腔外科
Sleep Medicine (2012年 9月 発行)	Obstructive sleep apnea increases hemoglobin A1c levels irrespective of the glucose tolerance status.	田村 彰	循環器内科
Heart and Vessels (2012年 11月 発行)	Upright T waves in lead aVR are associated with cardiac death or hospitalization for heart failure in patients with a prior myocardial infarction.	田村 彰	循環器内科
Journal of Critical Care (2012年 10月 発行)	Plasma C-reactive protein levels are associated with mortality in elderly with acute lung injury.	石井 寛	呼吸器内科
Journal of Palliative Medicine (2012年 5月 発行)	Medical professionals' attitudes toward tube feeding for themselves or their families: A multicenter survey in Japan.	石井 寛	呼吸器内科
Academic Radiology (2012年 7月 発行)	Relationship between CT findings and the plasma levels of brain natriuretic peptide in 29 patients with acute cardiogenic pulmonary edema.	石井 寛	呼吸器内科
FEMS Yeast Research (2012年 9月 発行)	Cloning of the lanosterol 14- α -demethylase (ERG11) gene in Trichosporon asahii: a possible association between G453R amino acid substitution and azole resistance in T. asahii.	串間 尚子	呼吸器内科
The American Journal of Cardiology (2013年 1月 発行)	Gender differences in symptoms during 60-second balloon occlusion of the coronary artery.	田村 彰	循環器内科
BMC Research Notes (2013年 3月 発行)	Prevalence of gastroduodenal ulcers/erosions in patients taking low-dose aspirin with either 15 mg/day of lansoprazole or 40 mg/day of famotidine: the OITA-GF study 2.	田村 彰	循環器内科
Clinical & Experimental Immunology (2012年 5月 発行)	Inhibitory effect of statins on inflammatory cytokine production from human bronchial epithelial cells.	白井 亮	呼吸器内科
Human Reproduction (2013年 3月 発行)	miR-196b targets c-myc and Bcl-2 expression, inhibits proliferation and induces apoptosis in endometriotic stromal cells.	阿部 若菜	産科婦人科
Gynecologic Oncology (2013年 2月 発行)	Clinicopathologic features of brain metastases from gynecologic malignancies: A retrospective study of 139 cases (KCOG-G1001s trial).	奈須 家栄	産科婦人科
Contraception (2012年 8月 発行)	Effects of parity and gestational age on second-trimester induction-abortion interval in combination with osmotic dilators and mifepristone.	甲斐 健太郎	産科婦人科
Clinical and experimental obstetrics & gynecology (2013年 2月 発行)	Depression and pregnancy-associated death by suicide after spinal cord injury: a case report	甲斐 健太郎	産科婦人科
Tumour biology (2013年 2月 発行)	Cucurbitacin D induces growth inhibition, cell cycle arrest, and apoptosis in human endometrial and ovarian cancer cells.	石井 照和	産科婦人科

Clinical Medicine Insights:Case Reports (2012年 5月 発行)	Transfundal uterine incision performed with Prophylactic common iliac artery balloon occlusion for patient with placenta previa totalis.	西田 欣広	産科婦人科
Rare tumors (2012年 4月 発行)	Ovarian small cell carcinoma complicated by carcinomatous meningitis.	高井 教行	産科婦人科
The Journal of maternal-fetal & neonatal medicine (2012年 12月 発行)	New evaluation of fetal oxidative stress: measurement of the umbilical cord blood dimethyl sulfate-induced ascorbyl free radical by an electron spin resonance method.	西田 欣広	産科婦人科
Gynecologic and obstetrics investigation (2012年 4月 発行)	The effects of epidermal growth factor and transforming growth factor- α on secretion of interleukin-8 and growth-regulated oncogene- α in human granulosa-lutein cells.	河野 康志	産科婦人科
日本人工関節学会誌 (2012年 12月 発行)	THA周術期 破綻したパイプローラー型人工骨頭に対するconversion THAの周術期合併症	原 克利	整形外科
大分県整形外科医会誌 (2012年 7月 発行)	人工骨頭置換術後遅発性感染に対する持続洗浄を併用したインプラント温存療法	原 克利	整形外科
整形外科 (2012年 12月 発行)	変形性膝関節症に対するヒアルロン酸製剤の維持投与療法の有効性 前向き多施設共同比較試験	片岡 晶志	整形外科
Hip Joint (2012年 8月 発行)	KTプレートを用いた寛骨臼再置換術の成績	田畑 知法	整形外科
整形外科 (2012年 6月 発行)	Metal-on-metal人工股関節全置換術後に生じた骨盤内腫瘍により著明な下肢腫脹をきたした1例	原 克利	整形外科
Journal of Spine Research (2012年 5月 発行)	【80歳以上の脊性疾患の治療戦略】高齢者脊椎手術後の合併症 手術侵襲の安全性を示すsliding scaleの作成	吉岩 豊三	整形外科
Clinical Orthopaedics and Related Research (2012年 8月 発行)	Anti-TGF- β antibody combined with dendritic cells produce antitumor effects in osteosarcoma.	河野 正典	整形外科
Oncology Report (2013年 3月 発行)	Enhancement of antitumor immunity by combining anti-cytotoxic T lymphocyte antigen-4 antibodies and cryotreated tumor lysate-pulsed dendritic cells in murine osteosarcoma.	河野 正典	整形外科
Heart Rhythm (2012年 5月 発行)	Electrocardiographic characteristics of patients with false tendon: possible association of false tendon with J waves.	中川 幹子	循環器内科
Internal Medicine (2012年 7月 発行)	Wolff-Parkinson-White syndrome concomitant with idiopathic ventricular fibrillation associated with inferior early repolarization.	高橋 尚彦	循環器内科
Circulation Journal (2012年 9月 発行)	Novel strategy to prevent atrial fibrosis and fibrillation.	高橋 尚彦	循環器内科
Circulation Journal (2012年 11月 発行)	Cardiac iodine-123 metaiodobenzylguanidine (123I-MIBG) scintigraphy parameter predicts cardiac and cerebrovascular events in type 2 diabetic patients without structural heart disease.	篠原 徹二	循環器内科
Journal of Clinical & Experimental Cardiology (2012年 8月 発行)	Interleukin-6 as an independent predictor of future cardiovascular events in patients with type-2 diabetes without structural heart disease.	篠原 徹二	循環器内科
Journal of Clinical & Experimental Cardiology (2012年 7月 発行)	Inhibition of Na ⁽⁺⁾ -H ⁽⁺⁾ exchange as a mechanism of rapid cardioprotection by resveratrol.	手嶋 泰之	循環器内科
Journal of molecular and cellular cardiology (2012年 5月 発行)	Activation of CaMKII as a key regulator of reactive oxygen species production in diabetic rat heart.	手嶋 泰之	循環器内科
Journal of cardiovascular electrophysiology (2012年 4月 発行)	Interventricular septal mass in a patient with cardiac sarcoidosis.	篠原 徹二	循環器内科
Heart Rhythm (2012年 8月 発行)	Establishment of a model of atrial fibrillation associated with chronic kidney disease in rats and the role of oxidative stress.	高橋 尚彦	循環器内科
日本臨床 (2012年 8月 発行)	心室頻拍	高橋 尚彦	循環器内科
日本臨床 (2013年 1月 発行)	心エコー, 経食道エコー	中川 幹子	循環器内科
臨床と研究 (2012年 8月 発行)	不整脈と心電現象の性差	中川 幹子	循環器内科
心電図 (2012年 10月 発行)	健常人に見られるJ波・早期再分極の特徴	中川 幹子	循環器内科

日本医事新報 (2012年 6月 発行)	特集「抗凝固薬を使いこなす」ケーススタディ 抗凝固療法を初めて施行する発作性心房細動の外來患者	高橋 尚彦	循環器内科
The Japanese Journal of Antibiotics (2012年 6月 発行)	2010年に全国72施設の臨床材料から分離された12,866株の各種抗菌薬に対する感受性サーベイランス	犀川 哲典	循環器内科
Inflammation (2012年 4月 発行)	The new vitamin E derivative, ETS-GS, protects against cecal ligation and puncture-induced systemic inflammation in rats.	古賀 寛教	麻酔科
Journal of Surgical Research (2012年 6月 発行)	New anthranilic acid derivative, EAntS-GS, attenuates Freund's complete adjuvant-induced acute pain in rats.	奥田 健太郎	麻酔科
Journal of Surgical Research (2012年 4月 発行)	Human atrial natriuretic peptide attenuates renal ischemia-reperfusion injury.	古賀 寛教	麻酔科
Journal of Surgical Research (2012年 7月 発行)	Removal of 17 cytokines, HMGB1, and albumin by continuous hemofiltration using a cellulose triacetate membrane: an ex vivo study.	安田 則久	麻酔科
Journal of Surgical Research (2012年 7月 発行)	The vitamin E derivative, EPC-K1, suppresses inflammation during hepatic ischemia-reperfusion injury and exerts hepatoprotective effects in rats.	萩原 聡	麻酔科
Journal of Surgical Research (2012年 7月 発行)	The vitamin E derivative, ESeroS-GS, attenuates renal ischemia-reperfusion injury in rats.	古賀 寛教	麻酔科
Anesthesia and Intensive Care (2012年 9月 発行)	Enhanced Needle Visualization: advantages and indications of an ultrasound software package.	高谷 純司	麻酔科
Korean Journal of Anesthesiology (2012年 7月 発行)	Ultrasound visibility of regional anesthesia catheters: an in vitro study.	高谷 純司	麻酔科
Journal of Surgical Research (2012年 6月 発行)	Vitamin E derivative ETS-GS reduces liver ischemia-reperfusion injury in rats.	古賀 寛教	麻酔科
Pediatrics International (2012年 6月 発行)	Neonatal transient distal renal tubular acidosis in a patient with pseudohypoparathyroidism type 1a.	是松 聖悟	小児科
The Pediatric Infectious Disease Journal (2012年 9月 発行)	Cell distribution differences of matrix metalloproteinase-9 and tissue inhibitor of matrix metalloproteinase-1 in patients with Kawasaki disease.	是松 聖悟	小児科
日本小児科学会雑誌 (2012年 9月 発行)	公的補助による任意予防接種と医療費控除の小児医療、地域社会への影響	是松 聖悟	小児科
Brain & Development (2012年 8月 発行)	The differences in epileptic characteristics in patients with porencephaly and schizencephaly.	前田 知己	小児科
臨床血液 (2012年 8月 発行)	思春期および若年成人の急性リンパ性白血病:その特徴と治療方針	末延 聡一	小児科
Journal of pediatric surgery (2012年 12月 発行)	The prognostic significance of blastemal predominant histology in initially resected Wilms' tumors: A report from the Study Group for Pediatric Solid Tumors in the Kyushu Area, Japan.	末延 聡一	小児科
日本小児血液・がん学会雑誌 (2012年 5月 発行)	小児白血病研究会ALL-02 研究における「感染症・血液培養陽性症例詳細調査票」の検討.	末延 聡一	小児科
臨床血液 (2012年 11月 発行)	小児非ホジキンリンパ腫の治療成績—九州・山口小児がん研究グループKYCCSG NHL-89, 96	末延 聡一	小児科
PLOS ONE (2012年 7月 発行)	Age-specific sex-related differences in infections: a statistical analysis of national surveillance data in Japan.	是松 聖悟	小児科
Research and Reports in Neonatology (2013年 3月 発行)	Successful treatment of two cases of urorectal septum malformation sequence with oligohydramnios and severe respiratory failure.	関口 和人	小児科
Journal of child neurology (2012年 12月 発行)	Hemimegalencephaly in a patient with coexisting trisomy 21 and hypomelanosis of Ito.	宮原 弘明	小児科

小計 22
計 145

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病 院 長 野 口 隆 之			
管理担当者氏名	総務課長	三 浦 進 治	医事課長	中 原 俊 秀
	副薬剤部長	伊 東 弘 樹	放射線部長	森 宣
	医療安全管理部長	三 股 浩 光	研究協力課長	千々松 範 朗

		保 管 場 所	管 理 方 法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌 処方せん 手術記録、看護記録、検査所見記録 エックス線写真		各診療科 薬剤部 医事課 放射線部	カルテ等病歴資料は、外来・入院別に一患者一ファイル方式で、コンピューターによる集中管理を行っている。 また、エックス線写真は、放射線部において一患者一ファイルで管理を行っており、共に永久保存を原則としている。	
紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医事課		
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課		
	高度の医療の提供の実績	医事課		
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	研究協力課 総務課		
	高度の医療の研修の実績	総務課		
	閲覧実績	総務課		
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課		
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課及び薬剤部		
	規 一 則 第 一 号 第 一 掲 条 の 十 一 体 制 第 一 項 確 保 の 各 号 状 況 及 び 第 九 条 の 二 十 三 第 一 項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課 (医療安全管理部)	医療事故報告の記録については統計処理が行えるよう、データ化して保管している
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課 (医療安全管理部)	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況		医事課		
専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況		医事課		
専任の院内感染対策を行う者の配置状況		医事課		
医療に係る安全管理を行う部門の設置状況		医事課		
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課 (医療安全管理部)			

		保管場所	分類方法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	医事課	保守点検に関する書類は装置ごと、他は年度ごとにファイルしている。また、院内の各端末からアクセスできる医療機器安全管理システムを用いて各情報の登録・閲覧・周知の院内統一管理を可能としている。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課 (感染制御部)	
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医事課	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医事課	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器安全管理 専門委員会	
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器安全管理 専門委員会			
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器安全管理 専門委員会			

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	医学・病院事務部長 小野 潔
閲覧担当者氏名	総務課長 三浦 進治
閲覧の求めに応じる場所	管理棟第2会議室

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	79.2%	算定期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数		8,597人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		7,040人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		1,480人
	D: 初診の患者の数		14,566人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・指針の主な内容： ①医療安全管理に関する基本的考え方 ②医療安全管理に係る体制確保のための組織等 ③医療安全管理に係る職員の教育・研修 ④医療事故発生時の対応 ⑤医療事故等の報告及び改善策の立案 ⑥当該指針の閲覧 ⑦患者相談に関する基本方針 ⑧その他（医療安全管理マニュアル及び改善策の見直し、医療安全対策の推進を図る機関への報告等）	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 4 回
・活動の主な内容： ①医療安全管理指針及び医療安全管理マニュアルの策定及び見直しに関すること ②医療事故の判定に関すること ③医療安全管理に関する改善策に関すること ④医療安全管理のための職員研修に関すること ⑤医事紛争に関すること ⑥その他医療安全管理上の重要事項に関すること	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 4 回
・研修の主な内容： ①第 1 回 ME 機器講習会 ②当院発生の褥瘡事例から学ぶこと ③第 2 回 ME 機器講習会 ④医療安全管理と感染制御～薬剤師の立場から～・～医師の立場から～	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
・医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="checkbox"/> ・無) ・その他の改善のための方策の主な内容： 1. 事故（インシデント）報告については、調査・分析を行い、改善策の立案を行っている。全体で共有すべき事例や新たに策定した安全対策については、毎月開催される病院運営委員会及びリスクマネージャー連絡会で周知し、全体に対しては、リスクマネージャーを通して周知を図っている。 2. 定期的に院内ラウンドを実施し、安全情報等の周知状況や安全確認手順の実施検証及び指導・助言を行っている。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> (2 名) ・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> (5 名) ・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
・所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (1 8) ・活動の主な内容： 1. メディカル・リスクマネジメント委員会（以下「委員会」という）が有効に機能するよう具体的な提案事項等の作成及びその他委員会の庶務に関すること 2. インシデント報告を分析し、その結果を委員会へ報告すること及び現場へのフィードバックに関すること 3. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分になされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと 4. 事故等について、患者や家族への説明などその発生時の対応状況の確認を行うとともに必要な指導を行うこと 5. 医療内容についての相談等に関すること 6. 医療安全に係る連絡調整に関すること 7. 医療安全管理に関する職員研修の企画及び運営に関すること	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
・指針の主な内容： ① 院内感染に対する基本的考え方 ②院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本的事項 ③院内感染対策のための職員に対する研修に関する基本方針 ④感染症の発生状況の報告に関する基本方針 ⑤院内感染発生時の対応に関する基本方針 ⑥患者などに対する当該指針の閲覧に関する基本方針 ⑦その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 3 回
・活動の主な内容： ① 感染予防対策の確立 ②感染予防の実施 ③監視及び指導 ④感染源の調査 ⑤感染予防対策に関する情報の収集 ⑥その他感染予防対策上の重要事項に関すること	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 4 回
・研修の主な内容： ① 感染対策の重要性～最近の事例から～ ② 何のため？特定抗菌薬の使用届出制～当院での事例を含めて～ ③ 感染予防対策の実際～インフルエンザの事例を通して～ ④ 医療安全管理と感染制御～薬剤師の立場から・医師の立場から～	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・病院における発生状況の報告等の整備 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無) ・その他の改善のための方策の主な内容： 院内の菌検出状況や感染症患者の状況を電子カルテシステム内の感染制御システムで管理している。主要な感染菌の検出状況や感染者情報については毎月報告を行っている。 抗菌薬の使用状況やTDM実施教協についても定期的に報告を行っており、注意を要する抗菌薬については届出制とし、感染制御部の介入を図っている。 感染制御部及びリンクナースによる院内ラウンドを定期的に行い、標準予防策や感染対策の実施状況の確認、指導を行っている。また、各種感染症サーベイランスも行っており、定期的に報告を行っている。 マニュアル変更や院内感染対策の重要情報については、病院運営委員会及び病院連絡会を通して周知を図るとともに、感染制御部ニュースを発刊し各部署へメール配信している。	

(様式第 13-2)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> 有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回 (ビデオセミナーを含む)
・ 研修の主な内容： ○何のため？特定抗菌薬の使用届出制～当院での実例を含めて～ ○医療安全・感染制御	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無) ・ 業務の主な内容：平成 2 5 年 8 月に実施し，確認内容を保管記録している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="checkbox"/> 有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 得られた情報のうち必要なものについては医薬品を取り扱う職員に対して周知する。 D I ニュース (月 1 回発行)，薬剤部便り (月 1 回発行)，その他必要に応じて通知文書として配布	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	<input checked="" type="checkbox"/> ・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年42回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>研修医オリエンテーション ME 機器研修，看護部新採用者 ME 研修にて講義及び輸液ポンプ等の操作実習，ME 機器講習会にて全部署にて使用する医療機器（人工呼吸器・除細動器・輸液ポンプ等）の講習会を実施</p> <p>部署ごとに関連する医療機器の講習会（人工呼吸器，透析装置，IABP・PCPS，除細動器，人工心肺，補助人工心臓，保育器，輸液ポンプ・シリンジポンプ）の実施</p> <p>各種医療機器（超音波診断装置・ベッドサイドモニタ）導入時研修の実施</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>人工心肺装置，補助循環装置，人工呼吸器，除細動器，AED，血液浄化装置，保育器，輸液ポンプ等の点検計画（実施月）の策定，保守点検の実施は臨床工学技士が行っている。</p> <p>また，放射線機器については，放射線技師が実施している。</p> <p>（始業・終業点検，安全・動作確認等日常点検，出力測定，漏洩線量測定など）</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (<input checked="" type="checkbox"/>・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医療機器安全管理システムを用いた添付文書及び安全情報の管理，PMDAメディナビによる情報収集，MDIC取得（臨床工学技士2名），ME機器講習会での周知，臨床工学技士の各種研修会・講習会への参加や報告</p>	